



東谷風穴

養蚕



指定名称
国指定史跡 荒船・東谷
風穴蚕種貯蔵所跡

所在地
中之条町大字赤坂
1474-11外

指定面積
2,579

所有
中之条町

概要

あづまや ふうけつ 東谷風穴は中之条町の東谷山北側の中腹、標高680m
あづまや さん 付近にあります。風穴とは、岩の隙間や横穴から吹き出
す冷気を利用した、蚕種（蚕の卵）貯蔵施設のことです。

養蚕は、江戸時代まで、春に1回行うのが一般的でした。
蚕の卵である「蚕種」のふ化には冬から春への一定の温度変化が必要です。そこで、低
温の状態です蚕種を貯蔵した後、暖かい場所に戻すと蚕種をふ化させることができます。
卵のふ化を調整できるようになると、夏と秋の安定した飼育が可能となり、風穴を利用
した蚕種の貯蔵は、全国的に広まり繭の生産量の増加をもたらしました。

各地で風穴による蚕種貯蔵が広まると、東村（現東吾妻町）の奥木仙五郎がこの付
近から吹き出す冷気に着目し、明治40年（1907）に貯蔵施設として整備し、当時は吾妻
風穴とも呼ばれていました。東谷風穴の蚕種紙貯蔵能力は、4万枚とも15万枚ともされて
いますが、規模から推計すると10万枚を超える貯蔵能力であったと考えられます。

東谷風穴には管理棟と大小2基の貯蔵所がありました。1号風穴は地上1階地下2階建てで、
石垣の大きさは南北約11m東西約8mです。地下2階は氷庫、地下1階は蚕種貯蔵庫、地上
1階は作業所でした。地下1階は棚板を設けず、地下2階は床をすのこ状に作る等、冷気の
循環をよくする工夫がなされ、冬期に近くの沢から氷を藁ムシロの袋に入れて運搬し、
地下2階に運び利用していました。2号風穴は1号風穴と管理棟の間にある、直径2m程の
竪穴で、これも貯蔵庫として使用されていました。冷蔵期間は毎年2月1日から7月30日ま
たは8月29日、冷蔵施設温度は最高4.4℃、最低-2.8℃の記録があります。

明治40年（1907）から昭和17年（1942）頃まで、主に栃窪の小菅形次郎などの蚕種製
造業者や、吾妻郡内外の養蚕農家から蚕種の冷蔵委託を受けていましたが、戦中の蚕種
業者の合同などによりその役割を終えました。戦後しばらくの間は、樹木の種子の保存
などに用いられていましたが、その後、養蚕の近代化に貢献した文化財として価値が認
められ、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の一つとして、世界遺産登録を目指
しています。



明治43年頃の東谷風穴

見学のご案内



東谷風穴

■行き方

○自動車を御利用の場合

関越自動車道 渋川伊香保ICから国道353号線を中之条町方面へ→松見橋信号三叉路を右方向へ→伊勢町下信号を右折→国道145号平信号を左折→県道大道横尾線をしばらく行き右折→林道北山本線を約1km標識を左折→駐車場→山道徒歩10分

※公共交通機関では現地まで行けませんのでタクシーまたは自家用車でお越し下さい。

■見学をする上での注意点

- ・林道は道幅がせまく、路肩が不安定な箇所がありますので、通行には十分御注意下さい。
- ・山道を10分程度歩きます。
- ・熊・猿・猪・ハチ等が出没することがありますので、御注意下さい。
- ・風穴内への立ち入りは御遠慮下さい。
- ・トイレは設置してありません。
- ・山からの落石および山道の小石などに御注意下さい。
- ・冬期は雪が凍り危険ですので見学はお勧めできません。
- ・見学は無料です。
- ・解説を希望する方は、下記問い合わせ先に御連絡下さい。

■関連する見学地

- ・富沢家住宅
- ・中之条町歴史民俗資料館 (TEL.0279-75-1922)

問い合わせ先

中之条町教育委員会 社会教育課
TEL.0279-76-3111

